

研究ノート

プレイヤー＝選手のスポーツ施設に対する 満足度（意識）調査

——新球場エスコンフィールド HOKKAIDO を題材にして——

古 葉 隆 明
上 代 圭 子

研究ノート

プレイヤー＝選手のスポーツ施設に対する 満足度（意識）調査

——新球場エスコンフィールド HOKKAIDO を題材にして——

古 葉 隆 明
上 代 圭 子

A Study of the User Satisfaction in Sports Facilities for Professional Athletes

KOBA, Takaaki
JODAI, Keiko

Abstract

Recently, sports facilities have garnered attention not only as venues to “watch sports” but also for their “value-added facilities and equipment,” which are now naturally expected. In the research field, there is a growing number of studies focusing on the added value of sports facilities. However, most of these studies center on customer satisfaction (CS) and primarily survey spectators as participants. While various value-added features are being incorporated into sports facilities, the perception and satisfaction of athletes—key factors influencing spectator satisfaction—have not yet been explored. Considering that spectator satisfaction relies heavily on athletes’ exceptional performance, it is crucial to examine how these “value-added facilities and equipment” affect athletes’ performance. Therefore, using Es Con Field Hokkaido, the home base of the Nippon-Ham Fighters, as an example, an interview survey was conducted with athletes to investigate the types of “value-added facilities and equipment” available and how these facilities impact the performance of the athletes who use them.

Keywords: Customer Satisfaction, Sports Facilities, Es Con Field Hokkaido

キーワード：顧客満足度調査, スポーツ施設, エスコンフィールド

目 次

1. 序論
2. 研究方法と手順
 - 2.1 調査方法
 - 2.2 調査対象
 - 2.2.1 調査対象（実地調査）
 - 2.2.2 調査対象者（インタビュー調査）
3. 結果
4. まとめ
5. おわりに

1. 序 論

日本のスポーツ施設は元来「するスポーツ」のための施設となっており、また1964年の東京オリンピックや国民体育大会といった「するスポーツ」を契機とした建設が長い間続いていた。そのため、多くのスポーツ施設は老朽化するとともに、「みるスポーツ」としては魅力のない施設が多くなってきている。そのようななかで、最近では「みるスポーツ」としてのスポーツ施設に注目が集まるだけでなく、「付加価値施設・設備」が当然のものとなってきており、なかでも株式会社北海道日本ハムファイターズ（以下、日ハム）の本拠地となったエスコンフィールドHOKKAIDO（以下、エスコン）と、周辺エリアを含めた北海道ボールパークFビレッジは卓越した施設となっていることは既に周知されているものである。スポーツ庁による「スポーツの実施状況等に関する世論調査」¹⁾によると、2022年度に野球（NPB、メジャーリーグ、高校野球、ソフトボールを含む）を直接現地で観戦した人の割合は16.8%であり、サッカー（日本代表、Jリーグ、海外サッカー、その他サッカー、フットサル）の8.8%を大きく上回っている。そのような状況において、研究分野においても「スポーツ施設の付加価値」に着目した研究が多々なされるようになってきている。このような施設に着目した調査においては、顧客満足度調査（CS）調査が多くなされているが、調査対象者のほとんどは観戦者となっている。観戦者も使用者のひとりであり、彼らの満足度が経営に直結していることを考えると、重要な調査であると言える。しかしながら、別の使用者である選手の満足度に関する研究は皆無と言っても過言ではない。スポーツ施設に様々な付加価値が付いていくなかで、観戦者の満足度の一要因となる選手の意識が明らかにされていないといった現状があり、彼らの素晴らしいプレーがなければ観戦者の満足度も下がってしまう。このような「付加価値施設・設備」が選手のプレーにどのような影響を与えているのかを調査することは重要であると考えられる。

そこで、元選手であり、以前他球場施設の設計に携わった経験を持つ筆者と付加価値設備に関する研究を実施している上代が日ハムの本拠地となったエスコンを訪問し、どのような「付加価値施設・設備」があるのかを調査することとした。そして、それらが選手のプレーにどのような影響を与えているのかを検討することを目的として、選手にもインタビューを実施した。

2. 研究方法と手順

2.1 調査方法

調査は、筆者による球場の視察（2023年8月28日）と選手へのオンラインによるインタビュー（2023年10月23日）の両面から行った。なお、今回の調査では筆者が実際にエスコンで野球のプレーや施設・設備の使用を試みることはできないので、施設・設備に対する満足度（意識）に関しては憶測の域になってしまう。そこで筆者が気にかかった点を踏まえ、実際に使用している「プレイヤー＝選手」にインタビューをすることで「プレイヤー＝選手のスポーツ施設に対する満足度（意識）を確認し、付加価値施設・設備が選手のプレーにどのような影響を与えているのか」を調査することとした。

2.2 調査対象

2.2.1 調査対象（実地調査）

実地調査はエスコンを対象とした。エスコンの概要は以下のとおりである。2023年3月に開業したエスコンは、日本野球機構（以下、NPB）加盟12球団の本拠地では、2009年に開業した株式会社広島東洋カープ（以下、カープ）の本拠地であるMAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島（以下、マツダスタジアム）以来の新球場となる。2019年に日ハムの子会社として設立された株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメントが所有・運営し、建設費は約600億円とされている。周辺エリアを含めた北海道ボールパークFビレッジは、宿泊施設・商業施設・レストラン・遊戯施設・マンションなどが建設され卓越した施設となっている。また、2028年4月に北海道医療大学がFビレッジ内に新キャンパスを開設することが発表された。この他にも、JR千歳線に2028年度をめどに新駅を建設予定である。現在、球場来場者のうち約4割程度の鉄道利用のため周辺道路の渋滞が問題視されているが、新駅完成による鉄道利用者の増加に伴い、道路渋滞等の緩和に繋がることが期待されている。収容客数は3万5千人であり、アメリカ・テキサス州ダラスの設計事務所HKSが設計したこの施設は、開閉式の屋根と天然芝を特長としている。左翼97 m、右翼99 mとなっており、これもマツダスタジアム以来となる左右非対称のフィールド形状で、外野のフェンスラインが直線のみで構成されている。またホームベースからバックネットまで15 mのため、ファウルゾーンが日ハムの以前の本拠地でもある札幌ドームと比べて著しく狭くなっているが、観戦者にとっては臨場感あふれる設計となっている（このファウルゾーンの距離は、公認野球規則の規定を満たしていないため改修案が浮上したが「野球振興協力金」としてNPBに約3億円を支払うことで解決をした）。2023年3月28日に、初の音楽イベントとして『F VILLAGE STARTING LIVE!』が開催され、同年3月30日に日ハムの公式戦として野球で初めて使用された。また同年7月には第105回全国高校野球選手権記念南・北北海道大会の準決勝と決勝で使用されている。

2.2.2 調査対象者（インタビュー調査）

面接調査対象者は日ハム所属の郡司裕也選手とした。なお郡司選手のプロフィールは以下の通りである。

郡司裕也（ぐんじ ゆうや）

ポジション 捕手/内野手/外野手

出身地 千葉

生年月日 1997/12/27

身長/体重 180 cm/89 kg

投/打 右/右

ドラフト年（順位） 2019年（4位）

プロ通算年 5年目

経歴 仙台育英高（甲）―慶應大―中日―日本ハム

小学校1年から野球を始め、6年の時には千葉ロッテマリーンズジュニアに選ばれた。中学3年の春には全国大会優勝を遂げた。仙台育英高校に進学、2年秋には明治神宮大会で優勝した。3年春は第87回選抜高等学校野球大会に出場し、3年夏は第97回全国高等学校野球選手権大会に出場して準優勝した。高校卒業後は慶應義塾大学に進学、1年の春季リーグ戦から出場、4年の秋季リーグ戦では三冠王を獲得し、明治神宮大会で優勝した。

2019年に中日ドラゴンズから4位指名を受けプロ野球選手となった。2023年6月19日、トレードで北海道日本ハムファイターズに移籍した。背番号は「30」。6月30日に一軍に昇格し、同日のオリックス・バファローズ戦は2番・指名打者で出場した。選手登録は捕手であるが、日本ハム移籍後は打力を生かすため、一塁・二塁・外野手としても出場している。2024年シーズンでは中心選手として活躍中でチームの好成績にも貢献し、オールスターゲームに選出され、127試合に出場し12本塁打等キャリアハイの成績を残した。

3. 結 果

試合が無い日程に合わせて行われる「スタジアムツアー」²⁾に参加した。さらに、スタジアムツアー終了後、日ハム統括本部チーム管理部（当時）荒井昭吾様、株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント事業統括本部國富建大様にご案内頂き、スタジアムツアーでは回らないエリアも調査する機会を得た。

・大型商業施設と見間違えるような外観

一般的に球場の外観は流線型のイメージを持たれることが多いが、エスコンは直線的な外観となっており、オフィスビルや大型商業施設と見間違えるような設計となっている。また、積雪が多い寒い地域ならではかもしれないが、天然光を取り入れてグラウンドの芝の育成を促すために南側は一面のガラスの壁となっており開放的な雰囲気となっている。（図1）

・「FIGHTERS」のチームロゴで統一感

球場には「FIGHTERS」のチームロゴをいたるところに設置している。選手用エントランスはレンガ造りの壁に、金色の「FIGHTERS」のロゴが待ち受ける。関係者によるとそのロゴは、日ハム



図1 エスコン外観

の一員であることを強く認識できるように特別にライトアップされているとのことである。（図2）（図3）

・選手専用入り口を入ると「戦闘モード」へ

選手専用エントランスの内側に入ると、心地よい香水の香りとともに白黒のモニターが目に入る。関係者によると、あえてカラーではなく白黒にすることで「戦闘モード」への気持ちの切り替えを促す狙いがあるとのことであった。このエントランスについて選手は「めちゃくちゃ気持ちが入ります。確かに、あの扉を入った瞬間に香り変わりますからね。」、モニターの色に関しては「カラーじゃないですか？ぜんぜん気にしていなかったです。」とのことであった。どの程度影響を及ぼしているかはわからないが「戦闘モード」に入るきっかけ作りに一定の効果はあるようだ。またそこにはモニターの他に、北海道出身で野球発展に貢献した久慈次郎氏、ヴィクトル・スタルヒン氏に敬意を表し、両氏の写真を向かい合わせて掲げている。日ハムに直接関係のない両氏と思えるが、初代オーナー大社義規氏の野球に対する熱い思いを継承している日ハム球団の粋な取り計らいとなっている。函館オーシャンスタジアムにある久慈氏の銅像と旭川市営球場にあるスタルヒン氏の銅像もこれらの写真と同じようにお互いが向かい合って建っているそうである。（図4）（図5）

・「1軍」にいることへの誇りを感じ取れるロッカールーム

チームロッカールームは円形であり、面積は316平方メートルと12球団で一番の大きさとなっている。照明は「戦闘モード」や「リラックスモード」など、状況に合わせて変化させられる。「チャ

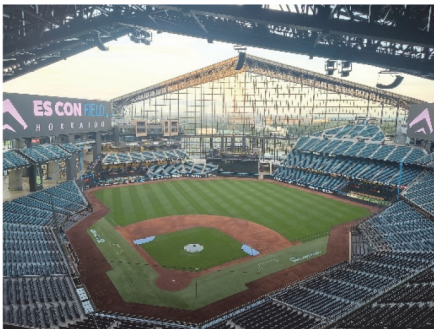


図2 エスコン内観



図3 選手用エントランス（外側）



図4 選手用エントランス（内側）



図5 スタルヒン投手

リティーBOX」も用意されており、選手が不要になった用具を集めチャリティーオークションをするそうである。また、各自ロッカーは十分すぎるほどの椅子やクローゼットが配置され、さらに金色のネームプレートが1軍にいることへの誇りを感じ取ることができるような配慮がなされている。選手はロッカールームについて、「新しすぎてもう毎日感動しますね。」と述べているが、個人用の椅子が豪華すぎるのではないかという質問をすると、「あれぐらい欲しいです。意外と練習と試合の間って間隔が空いたりするときがあるので、意外とみんなリラックスしているので、あのぐらいの椅子がいいですね、逆に。」とのことであった。また各人のロッカーに設置してある充電用のコンセントやセーフティーボックスについては、「これ以上何を望むのかってぐらいあります。」と述べていた。(図6)(図7)(図8)

・ミーティングルーム Big Classroom Professor Kuriyama

試合前ミーティングで使用する。大型モニターが2台、机付きの椅子が40席ほど設置されており、さながら大学の小教室のようである。選手によると「シーズン中は毎日使用する。」そうで、「映画館にいる気分になり、食事後のミーティング時には眠たくなる。」ようである。このミーティングルームは、球団に貢献された栗山英樹氏に敬意を表したネーミングとなっているが、これは指定管理ではなく自前で球場を作ったことによる賜物である。この部屋以外にも同じような配慮



図6 選手ロッカールーム

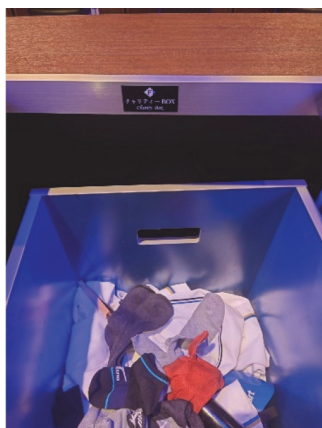


図7 チャリティーボックス



図8 椅子とクローゼット

がされており、レフトスタンド後方には、5階建て複合型施設「TOWER11（タワー・イレブン）」が設けられている。名前の由来は、メジャーリーガーのダルビッシュ有と大谷翔平がかつて日本ハムの在籍時に使用した背番号11から命名され、壁には両者の壁画が描かれている。選手の見線から見ると「いつか俺の背番号も」という思いにさせるのではないだろうか。（図9）（図10）

・ダイニングルーム（食堂） Penhallow Dining Room

アスリートにとって栄養補給は成功するための重要な要素のひとつだろう。練習や試合時には専用シェフが常時準備している。選手は現在寮生であるので、ナイトゲームの場合はランチ的なものを寮で済ませてから球場入り、練習前に食堂で軽食、試合前にまた食事をとり試合後に寮で食事をする。選手によってはエスコンで全ての食事を済ませる人もいるようである。選手が3食食べても良いと思わせるくらい、食事環境については充実させている。（図11）

・屋内バッティングケージ Hiroshi Ohshita Hitting Cage

往年の大打者、大下弘氏のネーミングがされている。ベンチの真裏であるので通常ならブルペンとして使用する場所であるが、フィールド外野側にブルペンを設置した関係でバッティングケージにしたそうである。最新のピッチングマシンも2台常設され、試合中でも当日の投手に合わせた球速・球種に合わせて練習できる。試合中にそこでバッティング練習をしてから良いイメージを残したまま試合の打席に入る選手が多くいるようである。（図12）



図9 ミーティングルーム



図10 タワー・イレブン



図11 ダイニングルーム



図12 バッティングケージ

・トレーニング関係施設

試合のためのエリア以外に、トレーニング時などに使用する施設にもチームの拘りが多々見受けられる。ウェイトルームは、大手スポーツクラブの監修の元、効率よくトレーニングができる設計となっている。ダンベル等にもファイターズロゴが使用されている。この近くには、調整プール・ハイドロ室が設けられており、コンディショニング向上のために使用すれ、さながら実験室のようである。また、休息もコンディショニング調整には非常に重要ものであるが、仮眠ルーム（Power Nap Room supported by nishikawa）が用意されている。チームエリアにのみ設けられているのが仮眠室であり、同所には寝具メーカーのマットレスや芳香剤を設置している。そして風呂場には、温泉・サウナ・シャワー・水風呂が併設されている。

その他、スポーツをするうえで怪我はつきものであることから、トレーナールームが設けられているが、これも一日でも長くプロ野球選手として活躍するために必要不可欠な場所である。（図13）（図14）（図15）（図16）

また、用具室は主にボールの保管場所となっている。年間の使用量は莫大なものになることから、専用の場所がある。そして、バットは湿気が大敵である中で、球場完成後、湿気が多かったことから急遽乾燥室を設置したそうである。乾燥室について選手は、「あれはどこの球場に行っても見たことがなかったので、すごいありがたいです。バッドだけじゃなくて、なんかいろんなものを乾燥させたりするので。バットは湿気があると重くなっちゃったりするので、僕はあんまりそんなに気にしなかったですけど、なんかすごい敏感な選手がいるので。だからあれはすごいありがたいです。」と述べており、実際にプレーする者でないと分からない選手目線に立った施設で



図13 ウェイトルーム



図14 調整プール



図15 仮眠室

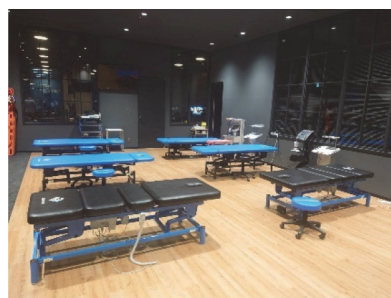


図16 トレーナールーム

あることがわかる。(図17)(図18)

・エスコンフィールド内について

NPBの本拠地で内外野共に天然芝を使用しているのは、エスコン・マツダスタジアム・楽天モバイルパーク宮城の3か所とこのエスコンのみである。日本の球場の多くは人工芝であることから、これまでに多くのNPB所属の内野手（松井稼頭央、西岡剛、井口資仁、岩村明憲等）がメジャーリーグに挑戦しても、天然芝への対応の難しさから、大成功したと言えるほどの成績を残した選手はいなかった。その理由のひとつとして日本国内の多くの球場が土または人工芝であり、天然芝の球場との打球の速さや跳ね方等への対応に慣れてないことが推察される。そのくらいプレーに違いが出てくるのである。そこで、登録は捕手であるが、日ハムに移籍してから内野・外野のポジションを経験している選手にエスコンのフィールドについて質問を投げかけた。

内野の天然芝については、「天然芝が思ったより、でこぼこが激しくて打球が減速するんです。なんていうか内野の土の部分が、割と硬めでして、ボールが飛んできたときに天然芝で減速した後土の部分で加速するので、内野手はかなり大変だという風に思います。」「みんなマツダ（スタジアム）も内野手は結構嫌っていたイメージがありますが、やっぱり基本的にはそうなのかも知れない。でもエスコンの芝の方が多分ちょっと、減速スピードがでかいです。」さらに「バッテリーからしてみれば打ち取ったのにとと思うところが、一つ余計なランナーを与えてしまうというか、バントの成功率が非常に高くなります。」「バントを強めにやっても打球が死ぬので（転がりが悪いということ）。多分、調べてないのでわからないですけど、バントはほぼほぼ成功します。セーフティバントもめちゃくちゃ決まるので、ソフトバンクの周東さんとかがよくやりますけど、アウトにできません。もう転がされたらね、取りに行けない。」とのことであった。サッカーでは、芝の長さを調整してボールのスピードをコントロールしてホームチームに有利になるようにすることがあることを伝えると、「他の設備に関しては本当に言うことはないんですけど、芝をどうにかしようっていうことは、めっちゃ選手は常に見てますね。」との回答であった。だがこの点について、「札幌ドームがだいぶひどかったらしいんでね、芝が。札幌ドームは人工芝なので、しょっちゅうライブとかあるので剥がしたりするタイプの球場で、下がめちゃくちゃ硬いらしいんですよ。」「芝だけどほぼコンクリートみたいな感じらしく、だからもうダイビングキャッチな



図 17 用具室



図 18 乾燥室

んてもう絶対できないらしくて。硬いのでみんなやっぱり足に疲労たまりやすくて。」とのことから、このような経緯もあって天然芝にしたことも考えられる。

このように選手がプレーする場であるフィールドについては、前の球場の反省点を活かして選手の意見と取り入れると共に、MLBに近づけた魅力的な設備にするために天然芝にしたとしても、日本の多くの野球場が人工芝である現状においては、熟考する必要があるのかもしれない。

また、自然光を取り入れるために壁がガラスのところが多いことについては、試合中はむしろ気持ちいいぐらいで、あまり気にならないそうである。ただしルーフオープンデーで、屋根を開けた時の日中の試合は眩しく、「選手はマジで開けないでくれっていつも言っています。」とのことであった。ただ「見ている側は多分これは最高に気持ちいいだろうな」といながら試合をしている。」「屋根を開けたほうが飲み物の売り上げも良いとかもあるというのを聞いたことがあるんですけど、選手中心で考えてくださるならできる限り開けないで欲しいというのがありますので、いいプレーするためにはね。」とのことであり、選手の環境と観戦者の環境どちらも最高のものにするのは非常に難しいことが伺えるものである。

さらに、マウンドについては、「エスコンのマウンドってあんまり高くないんですよ、多分。だから、ピッチャーに有利な球場とかってあるじゃないですか。多分エスコンはどちらかと言えばピッチャー有利じゃないんですよ。多分。マウンドも高くないし、硬くもないしみたいな感じなので。」とのことであり、「エスコンだから覚醒した！みたいなピッチャーはあんま見てないです。たまに、京セラだけすごい！みたいなピッチャーとかたまにいますよ。バンテリンドームだけすごいみたいな。けれどエスコン特化型みたいなピッチャーは全然見たことないです。」「バンテリンは、マウンドが高くて土が固いので、なんかデータも出ているんですけど、何か落ちる変化球の落ち幅が横浜スタジアムとバンテリンドームだと何センチ違うみたいなものもあったりして、それは打てないよね、みたいな。」とのことであり、決して悪いわけではないが、ホームのピッチャーにとって有利なものとはなっていないようである。

・その他

通路には、栗山監督までの歴代の監督の写真が選手通路に設置されていたり、大社オーナーのメッセージ・オーナールームがある。「ファイトがあれば、なんでもできる。」初代オーナー大社義規氏の言葉であるが、大社氏の功績とチームへの愛情は、今もなおファイターズに受け継がれていると感じ取れた。なお、背番号「100」のユニフォームを好んで着用し、現在はファイターズの永久欠番となっている。(図19)(図20)(図21)

・選手の要望について

選手から要望を伝える機会はあるのかということを質問したところ、「今のところ僕が入ってから1回アンケートみたいのありましたね。球場設備に対するなにか。」「グラウンドに対する要望を書くところとか、食事とか、ロッカールームとか項目がわかれていて、『何か意見があれば書いてください。』みたいな紙もあった。」とのことであり、選手を対象とした紙面調査を行ったようである。

選手を目線での良い点を自由に話してもらったところ、「本当にグラウンド以外はもう本当に言うことがないっていうか、裏に入った瞬間もう何も文句はないっていうか。食事、ロッカー、トレーナールームなんだ、ウェイトルームとか、もうその辺に関しては、もう文句ゼロです。」とのことであり、使用する立場である選手から見ても素晴らしい球場のようである。

また、この立地については選手は、「試合の帰りは球場を出てすぐのところは1本道になっているので絶対渋滞しているので、1時間は超えますかね。ゆっくり風呂に入ったりしたら、1時間弱



図 19 歴代監督の写真



図 20 オーナールーム



図 21 ファイトがあればなんでもできる

ぐらいですかね。1時間経っててもやっぱりまだ渋滞が終わっていないですね。帰りに渋滞していないのは1回もないです。勝ったときはともかく、負けてがっかりきてる時なんて、今から渋滞かと思ったら。」とのことであった。そして最後に、「エスコンフィールドの一番のいいところ。」について問うたところ、「いるだけで、気持ちっていうか、何か別に野球どうこう以前になんていうんですかね。景観がいいっていうか、何か自然ある観光スポット来てるみたいな。そういう気分に多分ファンの方も選手もなっているので、球場に行くのが嫌じゃないっていうか。あとはやっぱり、今までの球場とかだと、何か設備もそうですし、自分の調子が悪いとちょっと球場へ行くのが嫌だなと思うときもありますけど、エスコンフィールドだと、車で向かってそこが見えたときからだいぶ気分が上がりますし、そこはファンも選手も、なんか一番のモチベーションっていうか、結局そこが一番かなというふうに僕は思いますけど。」とのことであり、環境が選手のモチベーションを上げているようである。そして、それは選手だけではなく、観客も同じように感じているのではないかと考えているようである。スポーツ施設は、する方も見る方もまた伝えるとか支えている全ての人が快適な空間じゃなきゃいけないということは常識になっているので、それを選手も感じているということは素晴らしいことだと考える。

4. まとめ

本研究では、「スポーツ施設の付加価値施設・設備」が選手のプレーにどのような影響を与えるのかについて、球場の視察だけでなく使用者である「プレイヤー＝選手」を対象とした面接調査を実施することで明らかにした。日ハムは、2023年度シーズンこそ60勝82敗1分と最下位に終わったものの、2024年度は75勝60敗8分でリーグ戦2位となりクライマックスシリーズでもファイナルステージまで進出した。視察によって選手のことを最大限に考えた施設であることは明確になったとともに、選手のコメントからもわかるように、天然芝への対応の難しさには問題が残るが、それ以外の外観・エントランス・ロッカールーム・ダイニングルーム等さまざまな施設が選手のモチベーションを上げていることが明らかとなった。使用するエスコンが全てではないだろうが、2024年度の好成績を残したことに影響を与えたことが推察できる。だが、本調査は面接調査の対象者が1名であったことから、選手全体の意見とは言い難い。したがって、今後は面接調査の対象者を増やしていきたい。そして、野球施設だけでなくバスケットボールやサッカー等多種目に調査対象を広げることで、スポーツ施設全体に対しての言及が可能となり、今後のスポーツの発展の一助とすることを願う。

5. おわりに

札幌市と新千歳空港の間に広がるなだらかな丘陵地帯に位置するエスコンがある北広島市は、明治期に広島県人が入植し礎を築いた場所である。その北広島市には1975年のカープの初優勝以来、カープジュニアと名付けた野球少年団が多く結成された。カープの北海道遠征の際には当時カープの監督であった筆者の父である古葉竹識や主力選手らが立ち寄って指導していた。^{3) 4) 5)}

参考資料

- 1) スポーツ庁 スポーツの実施状況等に関する世論調査
https://www.mext.go.jp/sports/content/20230323-spt_kensport01-000028572_8.pdf
- 2) 日ハムホームページ スタジアムツアー
<https://www.fighters.co.jp/expansion/2023/stadiumtour/>
- 3) 4) 朝日新聞デジタル ボールパークに息づく不思議な縁 カープに彩られた北の大地の歴史
https://www.asahi.com/articles/photo/AS20230526002441.html?iref=pc_photo_gallery_4
https://www.asahi.com/articles/ASR5V5WW3R5VUTQP018.html?iref=pc_photo_gallery_breadcrumb
- 5) 中国新聞デジタル日本ハムの新球場「エスコンフィールド」の北広島市、広島の関係をたどる
<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/273793>